

研究・調査報告書

報告書番号	担当
3 2	滋賀医科大学福祉保健医学講座
題名 (原題/訳)	
Determinants of platelet aggregation in 50-70-year old men from three Japanese communities. 日本の3地域における50歳から70歳の男性の血小板凝集能決定要因	
執筆者	
Imano H, Iso H, Sato S, et al	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Atherosclerosis 2002; 165: 327-334	
キーワード	
血小板凝集能、n-3型多価不飽和脂肪酸、白血球、危険因子、断面研究、循環器疾患	
背景	
<p>血小板凝集能の上昇は血栓形成を促進するため冠状動脈性心疾患や脳梗塞の危険因子であると考えられている。しかしながら本邦における血小板凝集能を規定する生活習慣要因については明らかではない。</p>	
対象と方法	
<p>秋田県、茨城県、高知県の3つの町において、血小板凝集能と血清脂肪酸構成、飲酒、喫煙、1週間の食事記録による海草と大豆の摂取量との関連をみた。対象者は住民健診に参加した50から70歳の男性448人である。血小板凝集能は新鮮血を用いて比濁法によるADP (adenose-5'-diphosphate) の血小板凝集能閾値係数 (PATI) を指標として求めた。</p>	
結果	
<p>海草、n-3型多価不飽和脂肪酸、アルコール摂取量は、秋田の集団は他の2地域に比べて高かった。血小板数、白血球数は秋田の集団は他の2地域に比べて低くなっていた。血小板凝集能閾値係数の幾何学平均値 (geometric mean) は、秋田の集団は他の2地域に比べて高かった (すなわち血小板凝集能が低く血管がつまりにくいということ)。全集団をまとめて解析すると、血小板凝集能は、n-3型多価不飽和脂肪酸、血清γ-GTP (飲酒量の指標として用いた) と負の関連を示し、白血球数と正の関連を示した。血小板凝集能は有意ではないが血清のアラキドン酸と正の関連を示していた。喫煙と血小板凝集能は関連を認めなかった。</p>	
結論	
<p>本研究の新しい知見は、個人のn-3型多価不飽和脂肪酸と血小板凝集能の負の関連を始めて示した点にある。白人やイヌイト集団での検討では集団内のn-3型多価不飽和脂肪酸摂取量の分散が小さいためこのような差は検出できなかった。本研究は、日本人集団において、魚介類の摂取と適度なアルコールが血小板凝集能を低下させることを示唆している。</p>	